

沖データ (0120-65-4632)

## 世界初、1ドットあたり32階調を実現したカラーLEDプリンタ MICROLINE Pro 9800シリーズ、MICROLINE 9600PSを新発売

沖データは、DTP用途や企業内の高品位オンデマンド出力に最適なカラーページプリンタの新商品「MICROLINE Pro 9800シリーズ」3機種、及び「MICROLINE 9600PS」の合計4機種を5月13日より発売開始した。新製品は、フルカラー毎分36枚/モノクロ毎分40枚の高速出力をもち、中綴じ製本が可能なフィニッシュもオプションで用意。企業内プリント・オンデマンド用途に応えるスピードと機能を提供する。

同社は、True1200dpiのDigital LEDヘッドを開発するなど、印刷品質の高さで他社をリードしてきた。今回新たにVDC (Variable Dot Control) 方式の

Digital LEDヘッドを開発、ヘッド部の可変的な電気制御技術によって、1ドット当たりの階調数を従来の2階調から、世界で初めて16階調 (MICROLINE Pro 9800シリーズ)、または32階調 (MICROLINE 9600PS)へ高め、豊かな階調表現を可能にした。また、スクリーン線数においても、オフセット印刷の175lpiを越える190lpiの表現を実現するなど、最終印刷物としても利用できる高品位印刷を可能にした。なお最大出力解像度は、MICROLINE Pro 9800シリーズの3機種でTrue1200dpi、MICROLINE 9600PSでTrue600dpiである。

さらにMICROLINE Pro 9800シリーズ

では、DTP用途におけるカラーマネジメントや印刷シミュレーションへのニーズ拡大を踏まえ、米 Electronics For Imaging, Inc. (EFI社) のFieryコントローラを搭載。高品質かつ優れた印刷シミュレーションを可能にしている。一方MICROLINE 9600PSには、優れた操作性と多彩な機能で定評のある沖データ製コントローラを搭載しました。ICCプロファイルに対応した基本的なカラーマネジメント機能を装備し、普及価格を実現している。また個人情報保護法の遵守に向け、SSL/TLS技術を搭載し、暗号化による安全で安心なデータ送信を可能にしている。

SENDメール (03-5537-0367)

## メールセキュリティの統合プラットフォーム Sendmail Mailstream Managerを発表

SENDメールは、メールセキュリティの統合プラットフォーム「Sendmail Mailstream Manager」を発表した。本製品は、増大するメールセキュリティに関する脅威から企業を守るために、ウイルス対策やスパム対策、情報漏洩防止やコンプライアンスのためのメールポリシー設定・実施機能を統合し、一元的に運用・管理可能な統合環境を提供するミドルウェアソリューション。価格はオープンプライスで、SENDメールの販売代理店各社を通じ、6月上旬により出荷を開始する。

ウイルス/スパム/フィッシング対策や、社員のメール誤使用による個人情報

報漏洩の対策、メールアーカイブ義務化など法規制の遵守など、メールシステムへの要求が多様化している。企業はこれらの課題に対するソリューションを個別に導入していたが、その結果、メールシステムが複雑化して運用・管理の負荷が高まり、全社に一貫したメールポリシーを徹底させることが困難になっている。そこで、既存のメールインフラを活かしながら、個々のソリューションを統合して一元的に運用・管理可能な環境が求められている。

Sendmail Mailstream Managerは、ウイルス/スパム対策、送信ドメイン認証などを統合し、直感的なWebベースの

GUIで、メールシステム全体にわたり、ポリシーを一元管理可能な統合環境を提供。Microsoft ExchangeやLotus Notesなど既存のメールシステムやグループウェアに容易にアドオンでき、ウイルス/スパム対策では、オプションとして提供されるサードパーティのアンチウイルスフィルタ、またはアンチスパムフィルタも統合し、一元管理可能にしている。メールポリシー設定では、企業ごとのメールポリシーに基づき、さまざまなメールの条件に応じてアクションを詳細に設定でき、ビジネス環境の変化に合わせて設定の追加・変更も簡単に迅速に行える。

マイクロソフト (0120-41-6755)

## 64-bit 拡張テクノロジー(x64)に対応した Windows Server OS Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions 日本語版を6月1日より提供

マイクロソフトは、AMD64 プロセッサと Intel EM64T 搭載プロセッサの 64-bit 拡張テクノロジー(x64)に対応した Windows Server オペレーティング システム「Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions」日本語版ファミリーの各パッケージを、6月1日より提供開始する。

Windows Server 2003 x64 Edition は Enterprise x64 Edition、Standard x64 Edition がパッケージ販売され、デル、東芝、NEC、日本 IBM、日本 HP などから搭載サーバが順次出荷される予定。同時に、パートナー企業から Windows Server 2003 x64 Editions 搭

載サーバ及び対応ソフトウェアが順次提供される。

また同社では、AMD64、Intel EM64T に対応したサーバ・ハードウェア上で、32-bit バージョンの Windows Server 2003 を使用している既存のユーザーに対し、「Windows Server 2003 x64 Editions」を特別価格で提供する、「Technology Advancement Program」も開始する。

Windows Server 2003 x64 Editions は、新しい 64-bit アプリケーションと既存の 32-bit アプリケーションを、最高のパフォーマンスで、1つのプラットフォーム上で同時に稼働させること

により、既存の 32-bit 資産を保護しながら、64-bit へのスムーズな移行を実現する、新しい Windows Server 2003 ファミリー。Windows Server 2003 x64 Editions により、マイクロソフトとパートナー企業は、コストパフォーマンスに優れた、64-bit コンピューティングの本格的な普及が可能になると期待されている。すでに多くのソフトウェアベンダーがサポートを表明していることから、今後対応アプリケーションが増加するのに伴い、ユーザーの 64-bit 環境への移行が加速するものと思われる。

販売価格はオープンプライス。

コグノス (03-3344-3031)

## Intel Linux プラットフォームで稼働する Cognos ReportNet の提供を開始

コグノスは、Intel Linux プラットフォーム上で稼働する「Cognos ReportNet」の日本市場での提供を5月27日から開始した。本製品は Red Hat Enterprise Linux からの認定製品で、IT 部門の意思決定者が、自社の Linux アプリケーションにレポート作成機能を統合可能にするもの。

Cognos Incorporated のビジネス・インテリジェンス担当のジェニファー・フランシス副社長は、「弊社のお客様の多くが、コグノスの BI アプリケーションを利用するためにインテルアーキテクチャを導入しています。インテルアーキテクチャと Linux を組み

合わせることで、よりハイエンドの BI を求めているお客様に独自の価値ある提案を行うことができるようになります。Linux は現在では主流なプラットフォームかつ実用的な OS となっており、これにより我々のお客様は IT 投資の選択肢を拡大することができます。弊社は本腰を入れて Linux に取り組んでいます。これはすなわち、強化したソリューションを、より高いパフォーマンスとともにより低コストで提供することが可能になるということです」と述べている。

Cognos ReportNet は、完全な Web ベースのレポートとクエリーのオーサ

リング環境、多言語への全面的なサポート、そして最新の Web サービス・アーキテクチャを提供することによって、グローバルに多角的な事業活動を展開する多国籍企業のニーズを満たすとともに、TCO の削減に寄与するものと思われる。また、SOA で構築されているため、数十万人のユーザーにも対応できるという特長を持つ。今回、Linux への対応によって、コグノスのソリューションを導入するにあたり、低コストで高価値なパフォーマンスや演算能力が実現できるようになり、極めて費用対効果の高い拡張性が実現できると期待されている。